



## 道具は使いよう

新学期を迎え、待ち望んだ対面講義も可能な範囲で再開することになった。新入生も、昨年度寂しい思いを強いられた上級生も元気に登校してくれており、キャンパスは桜が散ってもにぎやかだ。

初対面から約1カ月が過ぎ、

彼らと話している中で一つの「？」が浮かんだ。コロナ禍でマスク生活がスタンダードになった今、みんなは顔と名前が一致しているのだろうかという疑問だ。そこで彼らに問い掛けると、意外な方法でこの問題を解消していることが分かった。

対面授業やキャンパスライフはもちろん、学生食堂で食事をする際もマスクを着けているのでやはり直接的な生活では「マスク顔」しか認識ができない。しかし彼らはオンライン講義を受講する時にクラスメートの顔を覚えたというのだ。なるほど、

自宅からならマスクを着用しなくとも受講可能だ。双方の表情を画面上ではあるが確認できるだろう。そう考えると、オンライン講義もある種の相互確認機能を持っているのかもしれない。彼らの適応能力に深く感心した。

対面時に起こる化学反応の魅力を経験的に知っているわれわれ世代は、オンラインでの新しい生活様式に否定的になりがち。だが、マスクなしの100パーセント対面があり得ない以上、われわれの思いは幻想にすぎないのかもしれない。嘆いて

いるばかりの私より、学生の方が前向きにこのコロナ禍を生きている。

経済産業省の調査で、企業が求める若者に欲しい力として「コミュニケーション力」と「応用力」が毎年上位に挙がる。これは現在の予測不能な時代を生きるわれわれ中年にも言えることなのだろう。こだわらず、とらわれず、柔軟に判断し行動しなければと思知らされた。

---

たかみ・だいすけ 日本文理大人間力育成センター長。専門は初年次教育、ユースワーク、ボランティア論。別府市在住。40歳。